

「(シドニー大学スプリングスクール) 参加報告書」

京都大学農学部 1 回生 (氏名) 山田 晃大

派遣前の僕はとにかく英語を話せるかどうかが不安でした。しかし、実際に授業やシドニー大学の生徒と交流してみると意外に僕の拙い英語でも相手がある程度推測してくれるおかげでコミュニケーションをとることができました。一番の問題はリスニングでした。相手が何を言っているか聞き取れず、自分がどう反応したらよいか分からなかったことが多々ありました。その典型的な例が実際にシドニー大学の授業を聴講したときです。僕が受講したのは経済学の授業で、1年間京都大学の授業で経済学を習っていたので、ある程度自信があったのですがまったくと言っていいほど先生の言っていることが聞き取れませんでした。リスニング力の欠如のせいもありますが、専門用語を覚えていないこともあると思います。自分の専門で習った用語は英語でも覚えておいた方が将来留学する際に役に立つのではないかと思いました。

プログラムの中で1番印象に残っているのはシドニー大学で日本語を習っている生徒と交流したことです。日本語で会話しましたが、全員日本語が流暢に話せていて驚きました。両親のどちらかが日本人という人も中にはいましたが、ゼロから勉強したという人もいてその熱心に日本語を勉強する姿勢を見習いたいなと思いました。しかし、詳しく聞いてみるとスピーキングは出来るけれど、ライティングが出来ないという人がほとんどでした。やはり日本の漢字は英語圏の人たちには難しいようです。彼らは日本のアニメやドラマをネットで見て楽しく勉強しているそうなので、僕も語学の勉強というかたい概念を捨てて、楽しく続けることができるような英語の勉強法を身に付けていこうと思いました。

このプログラムには様々なバックグラウンドを持った人がいました。今までにたくさんのプログラムに参加してきた人、海外に留学経験がある人、そして今から留学に行こうという人、世界1周をした人、実際に海外で働いたことがある人など、このプログラムに参加していなければ全く縁もゆかりもない人たちと出会えたということが今回のプログラムの一番の収穫でした。そして、色んな人に「まだ1回生なのだから色んなことに挑戦して経験を積んだらいいよ」と言われました。もうすぐ就職する先輩を見ていると、自分の好きなことが出来るのは大学生活だけだと改めて思いました。この気持ちをしっかりと胸に刻んで残りの大学生活を精一杯暮らしていきたいです。